



# ショートステイ・ゆきよし とやの における高次脳機能障害の理解度と対応

ショートステイ・ゆきよし とやの  
坪井彰宏

# 高次脳機能障害とは

- 病気（脳血管障害、脳症、脳炎など）や事故（脳外傷）などによって脳が損傷したために、言葉・思考・記憶・行為・学習・注意などの機能に障害が起きた状態を高次脳機能障害といいます。

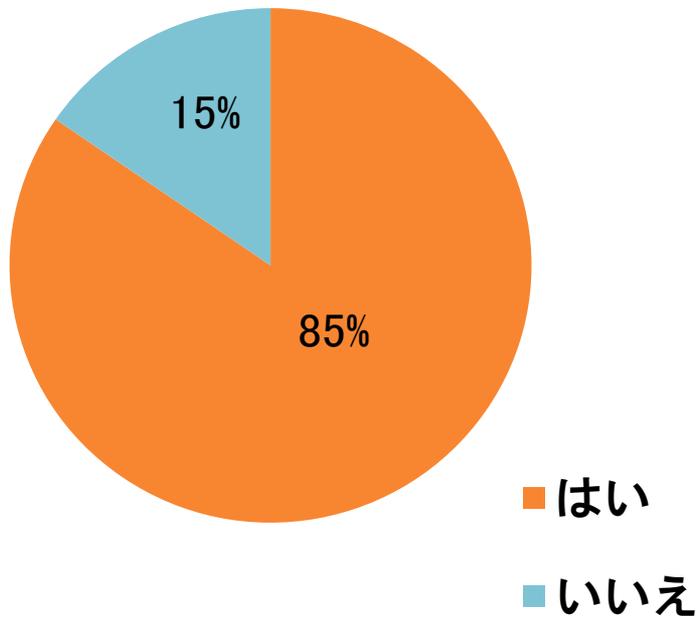
# 高次脳機能障害の症状

- 記憶障害
- 注意障害
- 遂行機能障害
- 社会的行動障害
- 失語症
- 半側空間無視

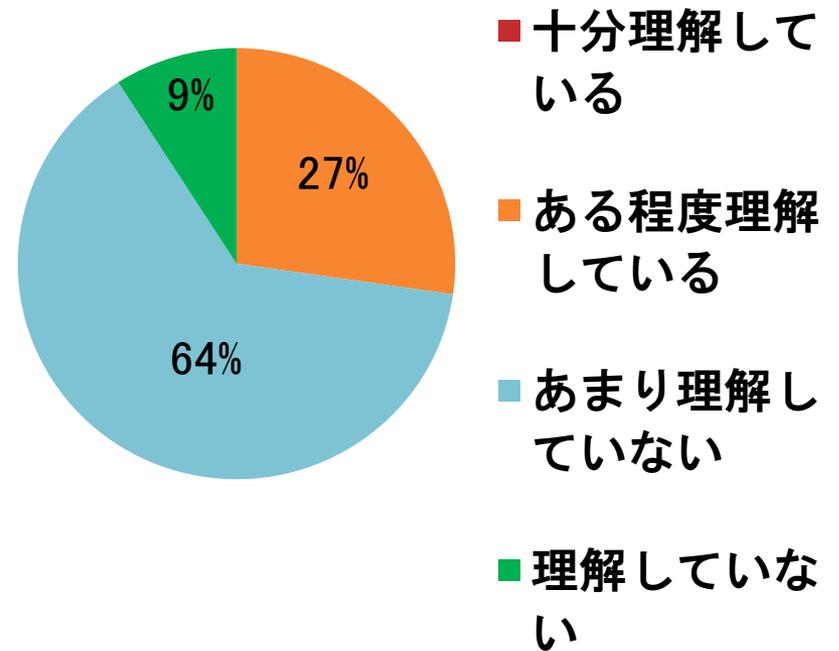
など

# 高次脳機能障害の認知度と理解度

## 認知度



## 理解度



# 失語症の利用者への対応

- 話すだけでは理解できないこともあるため、ジェスチャーを交えてスムーズに意思疎通を図る。
- 動作（目の動きや指を指す方向等）や口元の動きを注視し何を訴えたいのかを察する。
- 質問をする際、短文で返答できるように聞く。（はい、いいえ、それ、これ、等）  
以上の事を行い、失語症の方の症状を配慮し、意思疎通を行っている。

# 高次脳機能障害の利用者への対応

- Aさん

麻痺の有無：左上下肢

移動：車椅子

（自走可能）

食事：自立

排泄：日中定時トイレ

誘導

夜間オムツ対応

入浴：特浴

左半側空間無視あり

- Bさん

麻痺の有無：左上下肢

移動：車椅子介助要

食事：全介助

排泄：定時トイレ誘導

入浴：リフト浴

左半側空間無視あり

全般的に介助必要

# 高次脳機能障害の利用者への対応

- Aさん

- 言葉を繰り返して話されるので、じっくり傾聴する。
- 話が聞き取りにくいときはゆっくり話していただくよう、声掛けを行う。
- 左半側空間無視があるため、物を左側に置かない。

- Bさん

- 感情失禁が多くみられるため、つじつまの合わないことを言われても否定せずに会話をする。
- 自力で行動が困難なため、一つ一つの動作に声掛けをする。
- 左半側空間無視があるため、物を左側に置かない。

# まとめ

- 高次脳機能障害という言葉自体知らない。また、言葉は知っていてもどのようなものか理解度が低いため、勉強会等を開いて理解度を高め、利用者にあった対応を行なっていく。



**ご清聴ありがとうございました**